

結果枝の生育をそろえる／シャイマカット展葉 2～3 枚の防除徹底【黒とう病対策】

1. 生育状況（平岡ぶどうセンター周辺）

	南部	北部	備考
巨峰発芽	4/20	4/21	平年比-6 日、昨年比-7 日
巨峰展葉予想	4/23	4/25 頃	平年 5/1、昨年 5/2
シャイマカット発芽	4/25 頃	4/27 頃	平年比-6 日、昨年比-6 日
シャイマカット展葉予想	4/29 頃	5/1 頃	

本年は融雪が早く、土壌水分が少ない状況。4 月中旬に降雨があり水分補給されたため、土壌水分保持（敷きワラ・マルチ等）に努める。

2. 芽かき

- ◇ 芽かきはその年の着果量を定める上で一番はじめに実施する管理。
- ◇ 樹の状態（生育状況、枯れ込み、凍害、樹勢、施肥の有無）を確認する
- ◇ 芽かきは貯蔵養分の分配を効率よくさせるため、展葉 3～4 枚頃までには実施

《中梢・長梢の芽かきについて》

芽かき時期（3回にわけて実施）

- ① 展葉期初期（展葉してすぐ。副芽や先端の生育差のある芽をかく）
- ② 展葉 3～4 枚ごろ（極端に弱い芽、芽の数が多いところを整理）
- ③ まだ整理したりない場合は随時行う。（夏場の新梢管理）

芽かき方法（生育・枝の長さを揃える事を意識）

- ① 副芽・結果母枝の分岐部・極端に強い芽をかく（生長を揃える）：展葉期以降実施
- ② 主枝延長枝の先端は強い芽を残す（引っ張り枝）
- ③ 先端部と基部に大きく生育の差があれば先端部の芽をかき、生育をそろえる

《種なしぶどうの芽かきについて》

上記と同様。開花時期やジベレリン処理作業時期などを揃えるため、強めの枝が揃うように芽かきを実施する。

《短梢せん定の芽かきについて》

芽かき時期

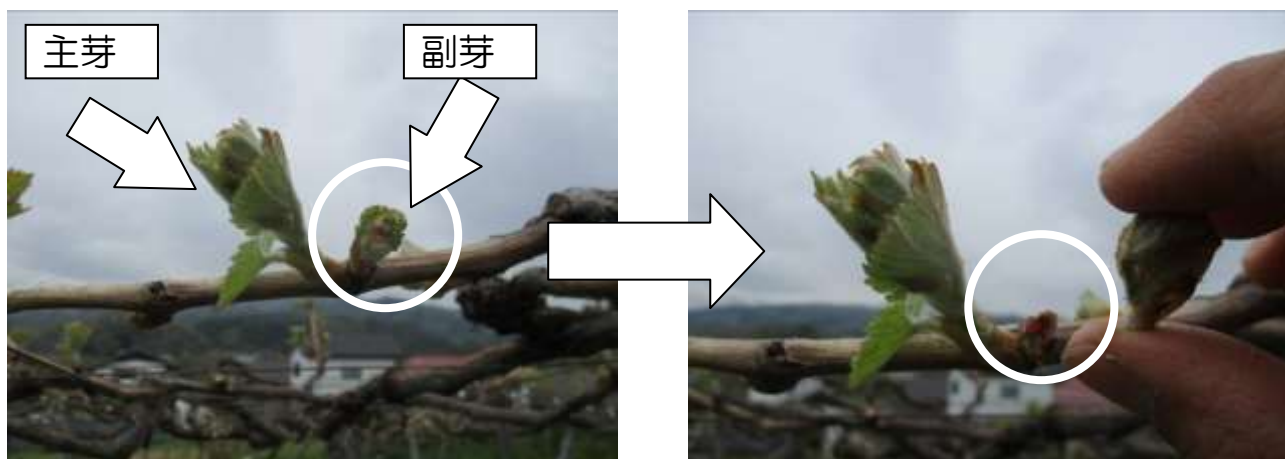
遅霜の心配がなくなった後（5 月 10 日頃～ ※展葉 3～4 枚頃にあたる）

芽かき方法

- ① 副芽の芽かき（副芽を手でかくと主芽が根元から折れる恐れ有。ハサミで切除推奨）
- ② 芽座から複数発芽している場合はなるべく基部に戻すように芽かきを実施
- ③ 花穂のある枝を残す

注意事項

- ◇ 誘引時に新梢が折れる可能性あり。誘引してから芽かきを実施してもよい。
- ◇ 芽かき後、新枝が混んでいる場合は整理する（15～20 cmに1芽）
- ◇ 枝の置きすぎで日陰になった枝が枯れ込んでいます！適正な枝の量の確認を！



- ・副芽を取って主芽を残す。枝（結果母枝）の芽の生育（大きさ等）をなるべく揃える。

3. 防除 「0（ゼロ）のつく日はぶどう防除の日（10日間隔の散布）」

散布時期	日付(予想)	使用農薬	倍率	主要対象病害虫
展葉 2～3 枚頃 シャインマスカット黒とう病	南部：5/1 頃～ 北部：5/4 頃～	オリワンファブル	2000 倍	黒とう病・晩腐病 うどんこ病・灰色かび病
展葉 6 枚頃	5/7 頃～	オーサイト 水和剤	800 倍	晩腐病・べと病・黒とう病
展葉 9 枚頃	5/17 頃～	ドーシャスファブル	2000 倍	晩腐病・べと病・黒とう病
開花 3 日前	5/27 頃～	フルツバ - オーサイト 水和剤 オルトラン水和剤	1500 倍 800 倍 1500 倍	晩腐病・べと病 灰色かび病・スリップス類

※オルトラン水和剤の登録が今秋切れる見込みとなりました。

登録の関係上、冷蔵出荷を予定されている方は別薬剤を検討しておりますので申し添えます。

《コウモリガ対策》

ガットサイド S（1.5 倍、21 日前まで、2 回）5 月上旬から塗布
薬剤散布の際は幹にもタツプリ散布する（主幹害虫対策等）

《カイガラムシ類・クビアカスカシバ対策》

スタークル顆粒水溶剤(アルバリン顆粒水溶剤)（2 倍、幼果期まで、塗布は 1 回）
水：薬剤＝1：1 で混ぜ、主幹部の 50cm 程度の幅で 1 周塗布する。

1 樹当たり 20～40 g

カイガラムシ類を防除する場合は、4 月中旬～下旬に塗布

クビアカスカシバを防除する場合は、5 月上旬～中旬に塗布

4. その他

☆ 種なしぶどうについて

【ストマイ液剤 20】

散布時期 満開 14 日前～満開始期

散布濃度 1,000 倍

注意事項 有核栽培の園地がある場合はドリフトに十分注意する。

散布時期の遅れに注意し、果房に十分かかるように散布する。

◎種なしぶどうについては必ずストマイ液剤を散布する

【フラスター液剤】

散布時期 展葉 9～11 枚（6 月上旬頃）

散布濃度・量 フラスター 3 本/10a あたり（使用量の目安）

SS 散布 1,000 倍 300 ㍓/手散布 500 倍 150 ㍓

※散布例 種なし巨峰：SS で散布の場合 1,000 倍/300 ㍓（10a）
手散布の場合 500～800 倍/150 ㍓（10a）

シャインマスカット：1,000 倍～2,000 倍/300 ㍓（10a）

◎品種により、フラスターの散布倍率が違うので注意する

※フラスター登録拡大について

本年3月30日からフラスターの開花期以降の散布について登録が拡大されました。
新梢管理作業の軽減が可能となります。登録を確認し適正に散布しましょう。

■適用作物名及び使用方法

（2018 年 3 月 30 日現在）

作物名 (品種名)			使用目的	使用時期	希釈倍数 (倍)	使用液量 (ℓ/10a)	本剤およびメビコートクロリドを含む 農薬の総使用回数	使用方法
ぶどう	巨峰	露地栽培	着粒増加 新梢伸長抑制	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	1,000	300	2回以内	散布
		施設栽培						
	巨峰系4倍体品種 (巨峰、ピオーネを除く)				500～800	100～150		
	2倍体米国系品種							
	3倍体品種							
	2倍体欧州系品種 (シャインマスカットを除く)				1,000～2,000			
	ピオーネ	着粒増加	満開10～40日後	500～800				
		新梢伸長抑制						
	シャインマスカット		着粒増加	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	1,000～2,000	100～150		
				満開10～40日後	500	150		
デラウェア	露地栽培	新梢伸長抑制	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	1,500～2,000	200～250	1回		
	施設栽培			800～1,000	100～150			

シャインマスカットとピオーネについて満開 10～40 日後の間で、500 倍 150㍓/10a の登録拡大がありました。

☆ トルキャップα（花冠とり補助薬剤）について

使用目的 花冠の飛びをよくする（ジベ焼け・果面サビの軽減）

使用方法 ①トルキャップα500 倍を開花 3 日前防除に加用

②トルキャップα1000 倍を落花直後の防除に加用

対象 花冠が落ちにくい品種（ガハ・プル、サニール・ジュなど）

有核巨峰の結実確保に向けての管理

開花期の低温、降雨、強樹勢樹等の理由により、親子の発生が心配されます。結実させるために以下の点に注意して下さい。

1. フラスター液剤の散布について（適樹勢への誘導。強樹勢に注意）

使用目的 適樹勢への誘導
使用時期 展葉9～11枚頃（5月上中旬頃）
散布量 フラスター3本/10aあたり
例）SS散布1000倍300㍓、手散布500倍150㍓

注意事項

- ・朝や夕方の涼しい時間帯に散布する。
- ・散布後、気温が高めに推移するとフラスター液剤の効き目が短くなる。
- ・枝の引き下ろし（邪魔でも切らない）せん定時に引き下ろした枝は満開以降切除

2. 結実確保のための葉面散布資材

目的	薬剤	効果	使用倍率
結実確保	マルポロン ヨーヒ B5	ホウ素補給による 花粉管の伸長向上	800～1,000 倍
良品質化	グリーンデイズ	苦土、ホウ素、マンガン補 給、葉の健全化等	1,000 倍
苦土補給	ビックマグ	苦土補給＝葉の健全化	1,000 倍
結実確保（強樹勢）	ビーブロッサ	ホウ素補給、リン酸補給に よる樹勢抑制と結実確保	1,000 倍
花粉増量	花果神	アミノ酸による花粉増量	10,000 倍
樹を落ちつかせる	メリット赤	リン酸による 窒素吸収抑制	300～400 倍
	スイカル	カルシウムで生育抑制	500～700 倍

上記葉面散布剤は状況を見ながら開花期までに3回程度散布する（定期防除混用可）

例年の傾向として・・・

貯蔵養分の不足

- ・早期落葉、成らせすぎ等で樹に負担がかかると花芽の充実不足・結実不安定となることがある。

花房を観察し花房の充実が悪ければ、ショルダー除去・花房整理をしましょう（養分を効率的に使用）

気象条件

- ・巨峰は高温を好み、低温は嫌う⇒花房に光を当てる、園地外周をビニールで覆う。
- ・開花期に過度の乾燥がある場合、少量かん水を実施する。
（ただし、開花期の過度のかん水は結実不良となりやすいので注意する）